



## 2023年12月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2023年5月15日

上場会社名 株式会社ペッパーフードサービス 上場取引所 東  
 コード番号 3053 URL <http://www.pepper-fs.co.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 CEO (氏名) 一瀬 健作  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 総務人事本部長 (氏名) 安田 一郎 TEL 03(3829)3210  
 四半期報告書提出予定日 2023年5月15日 配当支払開始予定日 ー  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有  
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2023年12月期第1四半期の業績（2023年1月1日～2023年3月31日）

#### (1) 経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年12月期第1四半期	3,614	2.2	△212	—	△211	—	△314	—
2022年12月期第1四半期	3,537	△28.6	△397	—	△54	—	△67	—

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年12月期第1四半期	△7.67	—
2022年12月期第1四半期	△1.71	—

(注) 2022年12月期第1四半期及び2023年12月期第1四半期の「潜在株式調整後1株当たり四半期純利益」については潜在株式は存在しているものの1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

#### (2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年12月期第1四半期	5,934	1,537	25.3
2022年12月期	6,221	1,296	20.2

(参考) 自己資本 2023年12月期第1四半期 1,503百万円 2022年12月期 1,256百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年12月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2023年12月期	—	—	—	—	—
2023年12月期（予想）	—	0.00	—	0.00	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 2023年12月期の業績予想（2023年1月1日～2023年12月31日）

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期（累計）	7,661	6.3	△110	—	△123	—	△155	—	△3.94
通期	15,392	4.2	130	—	103	—	39	—	0.99

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2023年12月期 1 Q	43,192,400株	2022年12月期	39,589,900株
② 期末自己株式数	2023年12月期 1 Q	220株	2022年12月期	220株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2023年12月期 1 Q	41,055,228株	2022年12月期 1 Q	39,410,980株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	2
2. 四半期財務諸表及び主な注記 .....	3
(1) 四半期貸借対照表 .....	3
(2) 四半期損益計算書 .....	5
第1四半期累計期間 .....	5
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項 .....	6
(継続企業の前提に関する注記) .....	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	6
(セグメント情報等) .....	6
(重要な後発事象) .....	7

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期累計期間におけるわが国経済は、インバウンド消費の復調や消費者マインドの回復など、コロナ禍からの緩やかな持ち直しが続く一方で、世界的なエネルギー・食料価格の高騰や世界経済の停滞により、依然として先行き不透明な状況が続いております。外食産業におきましては、原材料価格の高騰やアルバイト人員の確保のための時給の引上げなど、引き続き厳しい経営環境が続いております。

こうした状況のもと、当社は2023年を『新生』の年とすべく、感染症予防対策を継続し、お客様へ安心・安全な商品の提供に努めながら、既存店の収益性の向上への取り組みやプロモーション投資の推進、また、アジアを中心とした海外への展開に向け注力いたしました。

特別損益項目では、収益性の低下した店舗資産に対して減損損失として86百万円特別損失に計上いたしました。

これらの結果、当第1四半期累計期間における売上高は3,614百万円(前年同期比2.2%増)、営業損失は212百万円(前年同期は397百万円の営業損失)、経常損失は211百万円(前年同期は54百万円の経常損失)、四半期純損失は314百万円(前年同期は67百万円の四半期純損失)となりました。

セグメントの経営成績は次のとおりです。

#### ① いきなり！ステーキ事業

いきなり！ステーキ事業につきましては、販促活動として2月7日より『US産ニューヨークカットサーロインステーキ』フェアを開催、3月24日より『赤身！肩ロースステーキ』を全店で販売いたしました。

1月16日には、ユーザー様からのご意見をもとに協議を重ね、肉マイレージアプリの仕組みを大きく改定いたしました。ランク制度については、“ご来店毎のポイント制”から“召し上がったお肉のグラム数”へ変更し、ランクダウンへのネガティブなイメージに対応いたしました。来店特典については、“10回来店毎のタダ肉クーポン”から、“来店毎に次回使える肉マネークーポンを付与”へ変更し、継続的にご来店いただきやすい仕組みといたしました。また、事業の集中や、収益性の改善を目的として、3月10日に『牛たん仙台なとり小田原店』を『いきなり！ステーキダイナシティ小田原店』へ業態変更いたしました。業態変更初月の3月度の売上高は好調であり、施設より表彰をいただくことができました。

食肉価格高騰の影響から一部店舗にて、主力食材の一時的な欠品が生じたことで売上高及び利益項目に影響を与えておりますが、一部店舗の退店を進めていることから、収益性は向上しており、特にセグメント利益においては前年を大幅に上回りました。

この結果、当第1四半期累計期間における売上高は3,356百万円(前年同期比2.9%増)、セグメント利益は139百万円(前年同期比185.7%増)となりました。

#### ② レストラン事業

レストラン事業につきましては、販促活動として、各業態でメイン商品のブラッシュアップを図ると共に個店販促として季節商品メニューの投入や毎月29日(2月は9日)の肉の日フェアを実施し、既存店の売上並びに利益の向上に努めてまいりました。また、牛たん業態である『牛たん仙台なとり』につきましては、事業の集中や収益性の観点から、全店撤退を決定しました。それに伴い、1月31日に『牛たん仙台なとり柏店』を閉店しております。

この結果、当第1四半期累計期間における売上高は242百万円(前年同期比18.4%増)、セグメント損失は19百万円(前年同期は32百万円のセグメント損失)となりました。

#### ③ 商品販売事業

商品販売事業につきましては、『とんかつソース』、『冷凍ガーリックライス』、『冷凍ハンバーグ』、家庭でも味わえる『いきなり！ステーキセット』を各大手オンラインショップにて販売しました。また、1月に全面的な価格の改定を行い収益性の改善に努めております。

この結果、当第1四半期累計期間における売上高は14百万円(前年同期比68.9%減)、セグメント損失は2百万円(前年同期は9百万円のセグメント損失)となりました。

#### ④ その他事業

その他事業につきましては、店舗FC開発や店舗サポート及び購買に関する間接収益部門の事業となっております。新規加盟店の出店が発生していないため、売上高が減少している状況が続いております。

この結果、当第1四半期累計期間における売上高は0百万円(前年同期比96.7%減)、セグメント損失は25百万円(前年同期は26百万円のセグメント損失)となりました。

### (2) 財政状態に関する説明

当第1四半期会計期間末の総資産は、前事業年度末に比べて287百万円減少し5,934百万円となりました。これは主に、現金及び預金が59百万円増加したこと、売掛金が87百万円減少したこと及び建物が108百万円減少したことによるものです。

負債は、前事業年度末に比べて528百万円減少し4,397百万円となりました。これは主に買掛金が126百万円減少したこと、未払金が46百万円減少したこと及び借入金が286百万円減少したことによるものです。

純資産は、前事業年度末に比べて240百万円増加し1,537百万円となりました。これは主に、利益剰余金が314百万円減少したこと及び第13回新株予約権の行使に伴い資本金、資本剰余金がそれぞれ281百万円増加したことによるものです。

### (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年2月14日付「中期経営計画の進捗及び見直しに関するお知らせ」を御参照下さい。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：百万円)

	前事業年度 (2022年12月31日)	当第1四半期会計期間 (2023年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,888	1,947
売掛金	689	602
商品	186	168
貯蔵品	43	37
その他	642	555
貸倒引当金	△30	△30
流動資産合計	3,419	3,280
固定資産		
有形固定資産		
建物	893	785
その他	212	190
有形固定資産合計	1,106	976
無形固定資産		
	64	63
投資その他の資産		
破産更生債権等	3,242	3,262
敷金及び保証金	1,353	1,313
その他	287	311
貸倒引当金	△3,253	△3,273
投資その他の資産合計	1,630	1,613
固定資産合計	2,802	2,653
資産合計	6,221	5,934

(単位：百万円)

	前事業年度 (2022年12月31日)	当第1四半期会計期間 (2023年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	914	788
短期借入金	543	393
1年内返済予定の長期借入金	641	602
未払金	348	302
未払法人税等	18	—
契約負債	41	34
賞与引当金	—	8
資産除去債務	167	138
債務保証損失引当金	57	58
事業構造改善引当金	12	10
その他	454	462
流動負債合計	3,200	2,799
固定負債		
長期借入金	583	487
資産除去債務	561	556
事業構造改善引当金	123	100
その他	455	452
固定負債合計	1,724	1,597
負債合計	4,925	4,397
純資産の部		
株主資本		
資本金	23	305
資本剰余金	3,176	3,458
利益剰余金	△1,940	△2,255
自己株式	△0	△0
株主資本合計	1,259	1,507
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△2	△2
繰延ヘッジ損益	△0	△2
評価・換算差額等合計	△3	△4
新株予約権	40	34
純資産合計	1,296	1,537
負債純資産合計	6,221	5,934

(2) 四半期損益計算書  
(第1四半期累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年3月31日)	当第1四半期累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年3月31日)
売上高	3,537	3,614
売上原価	1,584	1,545
売上総利益	1,952	2,069
販売費及び一般管理費	2,350	2,281
営業損失(△)	△397	△212
営業外収益		
受取利息	0	0
協賛金収入	4	4
新型コロナウイルス感染症拡大防止協力金	329	—
賃貸借契約解約損戻入益	—	5
その他	17	2
営業外収益合計	352	12
営業外費用		
支払利息	7	3
支払保証料	—	7
その他	2	1
営業外費用合計	9	11
経常損失(△)	△54	△211
特別利益		
固定資産売却益	1	—
新株予約権戻入益	2	—
事業構造改善引当金戻入額	23	3
特別利益合計	27	3
特別損失		
固定資産売却損	—	0
固定資産除却損	0	0
減損損失	33	86
特別損失合計	34	87
税引前四半期純損失(△)	△61	△296
法人税、住民税及び事業税	5	18
法人税等調整額	—	—
法人税等合計	5	18
四半期純損失(△)	△67	△314

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

日本国政府は2020年2月以降、新型コロナウイルス(COVID-19)感染症に関連した感染症対策の基本方針等を公表しましたが、それ以降消費者は外出等を控え外食需要に重要な影響が生じております。当社においては、政府及び自治体からの各種要請等を受けて一部店舗の臨時休業や営業時間短縮を実施したことなどから、2020年3月以降、当社の来店客数は顕著に減少して売上高も著しく減少しております。2022年3月21日には、店舗の営業に対する制限が概ね解除され、来店客数等は次第に回復しておりますが、いまだ回復の途上にあり、新型コロナウイルス感染症の感染拡大前の水準を下回る状況が続いております。これらの結果、当第1四半期累計期間においては、継続した営業損失を計上するとともに、重要な四半期純損失を計上しております。

この結果、借入金の返済等の資金繰りに懸念が生じており、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しております。

当社は、当該状況の解消または改善のために、下記のような対応策を講じております。

- ① 当社は、収益改善及び本社費用の削減等の施策を行っております。具体的には、既存店の売上対策を強化し、店舗の事情に応じたメニューの変更等を推進しております。また、従業員の適正配置などのコスト削減施策も推進し、事業の収益性を改善しております。
- ② 当社事業の各種ステークホルダー(金融機関等)との緊密な連携関係を高め、必要に応じた支払条件の柔軟化等を含めた協力体制の強化を行っております。
- ③ 当社は適切な店舗体制を構築するために、2020年度以降、当第1四半期末までに147店舗の閉店を決定し必要な会計処理をしております。今後も店舗の収益性を見極めて不採算店の整理を進めております。
- ④ 当社は、2022年12月8日の取締役会にて、第三者を割当先とした第13回新株予約権及び第14回新株予約権の発行に係る決議を行いました。なお、2023年5月15日現在、これらのうち第13回新株予約権が行使され873百万円の調達を完了しております。

しかしながら、収益改善及び本社費用の削減等の施策の成果が、売上高及び業績に及ぼす影響について見通すことが容易ではないこと、また金融機関等との間で支払条件等の協力体制を築くために一定の期間を要することも想定されること及び、新株予約権の行使について株価下落等により予定通り資金調達ができない場合があることから、現時点においては継続企業の前提に関する重要な不確実性が存在するものと認識しております。

なお、四半期財務諸表は継続企業を前提としており、継続企業の前提に関する重要な不確実性の影響を四半期財務諸表に反映しておりません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2022年12月26日付発行の第13回新株予約権(行使価額修正条項付)の行使に伴う新株の発行による払込みを受け、資本金及び資本準備金がそれぞれ281百万円増加しております。

この結果、当第1四半期会計期間末において資本金が305百万円、資本準備金が295百万円となっております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期累計期間(自 2022年1月1日 至 2022年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期 損益計算書 計上額 (注3)
	いきなり! ステーキ事業	レストラン 事業	商品販売事業				
売上高 外部顧客へ の売上高	3,261	204	48	22	3,537	-	3,537
計	3,261	204	48	22	3,537	-	3,537
セグメント利益 又は損失(△)	48	△32	△9	△26	△21	△376	△397

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、加盟開発部門、営業サポート部門、購買部門等が含まれております。

2. セグメント利益又はセグメント損失の調整額△376百万円は、各セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又はセグメント損失は、四半期損益計算書の営業損失と調整を行っております。



2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(単位：百万円)

	いきなり！ ステーキ事業	レストラン 事業	商品販売事業	その他	計	財務諸表 計上額
減損損失	33	—	—	—	33	33

II 当第1四半期累計期間(自 2023年1月1日 至 2023年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期 損益計算書 計上額 (注3)
	いきなり！ ステーキ事業	レストラン 事業	商品販売事業				
売上高 外部顧客へ の売上高	3,356	242	14	0	3,614	—	3,614
計	3,356	242	14	0	3,614	—	3,614
セグメント利益 又は損失(△)	139	△19	△2	△25	92	△304	△212

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、加盟開発部門、営業サポート部門、購買部門等が含まれております。

2. セグメント利益又はセグメント損失の調整額△304百万円は、各セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又はセグメント損失は、四半期損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(単位：百万円)

	いきなり！ ステーキ事業	レストラン 事業	商品販売事業	その他	計	財務諸表 計上額
減損損失	85	1	—	—	86	86

(重要な後発事象)

(新株予約権の行使)

当第1四半期累計期間後、当社が2022年12月26日に発行した第13回新株予約権(行使価額修正条項付)の権利行使が行われております。

新株予約権が行使され、2023年4月1日から2023年5月15日までに発行した株式の概要は以下のとおりであります。

- ① 行使された新株予約権の個数 19,306個
- ② 発行した株式の種類及び株式数 普通株式 1,930,600株
- ③ 資本金増加額 146百万円
- ④ 資本準備金増加額 146百万円

以上により、発行済株式総数は1,930,600株、資本金及び資本準備金はそれぞれ146百万円増加し、2023年5月15日現在の発行済株式総数は45,123,000株、資本金は451百万円、資本準備金は441百万円となっております。